

令和6年度「学部教育充実予算」

# 体育・スポーツの エキスパート育成プログラム 事業報告書

- アスリート・コーチ
- アスリートサポート
- 保健体育教員
- 健康運動指導者
- 生涯スポーツ教育者
- キャリア教育

福岡大学スポーツ科学部

令和6年度「学部教育充実予算」

# 体育・スポーツのエキスパート育成プログラム

事業報告書

## 目次

挨拶	01
プログラムについて	02
アスリート・コーチ育成プログラム	04
アスリートサポートプログラム	08
保健体育教員採用試験対策プログラム	10
健康運動指導者試験対策プログラム	12
生涯スポーツ教育実践プログラム	13
キャリア教育実践プログラム	14
令和6年度 成果一覧	18

# 挨拶

## スポーツ科学部長 檜垣 靖樹

2011年度からスタートした、全学的な取り組みである「魅力ある学士課程教育支援プログラム」は、本学部において新カリキュラム（2010年入学生より施行）に沿った内容として展開してきました。その後、2013年度からは「教育推進経費」、2016年度からは「暫定的教育予算」、2017年度からは「学部教育充実費」として予算計上し、「アスリート・コーチ育成プログラム」、「アスリートサポートプログラム」、「保健体育教員採用試験対策プログラム」、「健康運動指導士試験対策プログラム」、「生涯スポーツ教育実践プログラム」、「キャリア教育プログラム」の6つのプログラムを実施してきました。各プログラムは、スポーツ科学部生の出口を見据えた具体的な取り組み内容であり、スポーツ科学部の教育実践として社会に貢献する人材養成を具現化するものです。

2024年度は、健康運動指導士10名の合格、JATI4名の合格、保健体育教員の現役合格者は昨年度より倍増し14名（中学校12名、高等学校2名）となるなど、取り組みの成果が現れています。また、課外活動で優秀な成績を収めたスポーツ賞の受賞には2団体および個人19名が選出されました。

福岡大学創立100周年に向けて、学士課程教育のさらなる充実、学修者本位の教育の推進および学生自身が身につけた力を実感できる教育プログラムの開発に本事業の重要性を実感しております。

最後に、本プログラムを実施するにあたり、大学のご理解とご支援、ならびに学部教育に携わっていただいた関係者の皆様に深く御礼申し上げます。

# プログラムについて

## コーディネーター 今村 律子

スポーツ科学部では、平成 22 年度入学生からカリキュラムの改編に伴い、福岡大学の「魅力ある学士課程教育支援プログラム（体育・スポーツのエキスパート育成プログラム）」とタイアップしてさまざまなプログラムを実行してきました。その後、カリキュラムの完成年度（平成 25 年度）にその効果を検証した結果、大きな効果が認められました。平成 25 年度以降は、「教育推進経費」により本プログラムを継続し、平成 28 年度からは、減額されたものの「暫定的教育予算」によって継続してきました。そして、平成 30 年度からは「学部教育充実予算」として同様のプログラムを実施しました。このプログラムは、現カリキュラムの特徴である推奨コースと連携をとるプログラムが多く、教育的な効果も高くなっており、スポーツ科学部の魅力をつくり出す重要なプログラムとなっています。

現カリキュラムは、1 年次生の学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向づけをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものです。「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」は、本学部の現カリキュラムと非常にマッチしたものであり、これまで多くの成果を得ることができました。平成 30 年度においても「学部教育充実予算」で申請し、これまでと同様のプログラムを実施してまいりました。それぞれのプログラムでは、コースの特性を生かし、期待以上の成果が上がってきました。

本年度は、学習形態のバリエーションは多様化に対応しながら、当学部のオリジナルプログラムの新しい形として進化しております。部活動の地域移行を始め、地域社会との連携も重要な大学の役割となっている昨今、より各プログラムの広がり期待されます。本プログラムを通して、学生たちが力を発揮し、地域、そしてグローバルといった様々なステージで目標に歩いて行けることを願っています。

## プログラムスタッフ

◇統括 檜垣靖樹

◇アスリート・コーチ育成プログラム

乾 眞寛 米沢利広 片峯 隆 村上 純  
田口晴康 柿本真弓 坂本道人 田場昭一郎

◇保健体育教員採用試験対策プログラム

柿山哲治 梅田保人 今村律子

◇生涯スポーツ教育実践プログラム

霜島広樹 藤井雅人 築山泰典

◇コーディネーター 今村律子

◇アスリートサポートプログラム

下園博信 布目寛幸 川中健太郎  
森口哲史 吉田一也

◇健康運動指導者試験対策プログラム

道下竜馬 山口幸生 川中健太郎

◇キャリア教育プログラム

野口安忠 信岡沙希重 吉田一也

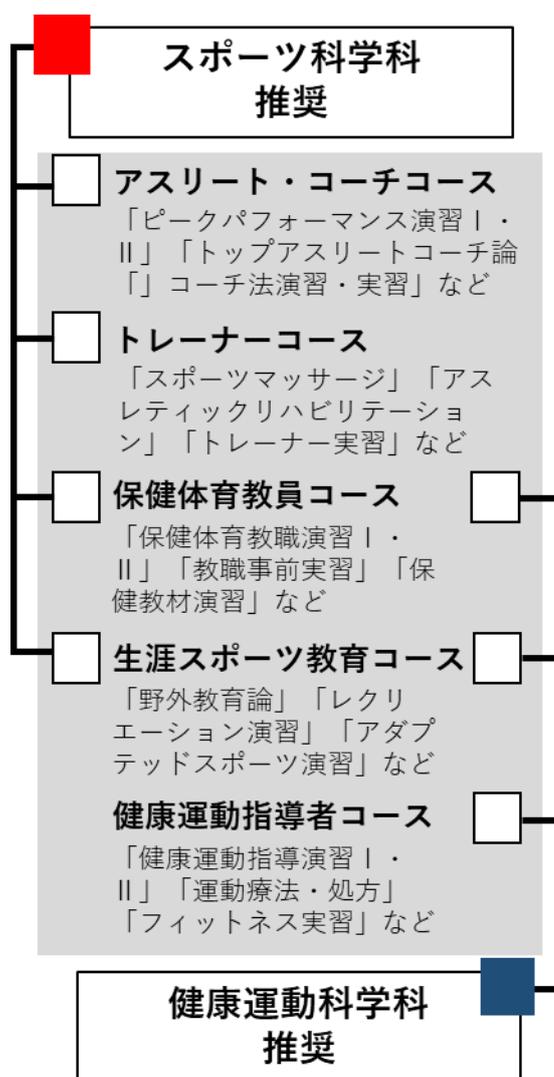
◇会計 大野朝美

## プログラム概要

### 目標と特徴

スポーツ科学部では、平成 22 年度からスタートした現カリキュラムに向けて様々なプログラムを準備して実践してきた。新カリキュラムは、学生が就職等の進路先も視野に入れた科目履修ができるように方向付けをする（コース推奨科目群の設定）とともに、学年が上がるにつれて専門性が高められるよう編成されたものである。アスリート・コーチコースでは、平成 20 年度から 3 年間継続した「トップアスリート強化・支援のための実践プログラム」を一部継続しながら、全国大会上位入賞者および団体（チーム）のさらなる増加を、保健体育教員コースでは、3 年次からの人数制限科目の設定等により、教員採用試験の現役合格者あるいは卒後早期合格者の増加を、健康運動指導者コースでも 3 年次からの専門家養成教育に重点を置くことにより、健康運動実践指導者および健康運動指導士の合格者の増加を、そしてトレーナーコースと生涯スポーツ教育コースでは、アスティックトレーナーやトレーニング指導者、野外教育・レクリエーション指導者などのエキスパート育成を目指している。

アスリート・コーチコースの学生には、国内外で活躍する指導者や選手を招聘し、継続的な動機づけと明確な目標設定を行わせ、より高度な競技レベルへのチャレンジ精神と自発的に学ぶ姿勢を身につけさせる。さらに、国内外での研修を奨励し、国際的視野で活躍する人材を育成する。また、アスリートサポートプログラムでは、栄養サポート、メンタルサポート、フィジカル&バイオメカニクスサポートなどにより、サポートのエキスパート育成が期待できる。保健体育教員コースの学生には、教員採用試験突破に向けた講習会と勉強会を、健康運動指導者コースの学生には、健康運動実践指導者および健康運動指導士の試験合格に向けた講習会と勉強会を設定することで、意欲ある学生への支援が可能となる。トレーナーコースや生涯スポーツ教育コースの学生には、実践教育の場を供給できる点で効果が期待できる。また、2 年次生の開講科目「ステップアップセミナー」では、職業意識を高めるために、様々な職種の講師を招聘している。



# アスリート・コーチ育成プログラム

担当責任者 乾 真寛

2011年度から始まった「体育・スポーツのエキスパート育成プログラム」は、14年目を終えた。2008年度に開始した「トップアスリート強化支援のための実践教育プログラム」の3年間を合わせると、計17年間継続されてきたことになる。

福岡大学内のスポーツ強化策が2005年度からスタートしたことと合わせて、全国大会及び国際大会での“福大アスリート”の活躍は飛躍的に実績を挙げており。2024年度は剣道部女子が全国大会で初優勝を成し遂げた。また、全国大会3位以内に入賞した種目は、・(団体)陸上競技(女子)リレー4×100m・(個人)陸上部から7人・なぎなた部から3人・レスリング部から3人・柔道部から2人・モーターボート水上スキー部1人・新体操競技部1人・サッカー部男子1人・ハンドボール部女子1人・ソフトボール部男子1人と9種目が上位入賞を果たしている。

当プログラムは、競技面での実績を高めることを目標に掲げ、世界的スケールで活躍してきた実績を持つ一流アスリートやコーチを本学にお招きし、その貴重な体験談を聞ける場を授業時間内で定期的に提供することを目指した。

2年次の前期に開講された「ピークパフォーマンス演習Ⅰ」では、授業内に合計4回外部講師をお招きし、トップアスリートから直接に経験談や苦労話、失敗談、ケガとの向き合い方等を聞ける機会を提供している。

外部講師の派遣については、株式会社ミズノ九州支社のご協力を得て、国内の超一流アスリートをお迎えしており、学生たちからも高い評価と反応があり、出席状況も良好であり、学生たちのモチベーションを高めることにも大きく貢献できていると確信している。

2020年のコロナ禍以来「ピークパフォーマンス演習Ⅱ」による海外研修や国内スポーツ研修制度の参加者は、まだ充分には復活・再開できていないが、今後福大アスリートの目標設定や自己実現に対して大きな成果を挙げていくため、「ピークパフォーマンス演習Ⅰ・Ⅱ」を通じて大いに経験値を高めて欲しいと考えている。

この事業の実施に際しまして、ご尽力頂きました皆様方に、プログラム責任者としてお礼を申し上げます。有難うございました。

## 特別講演会 ゲスト講師

### 官野 一彦 氏 ウィルチェアラグビー、パラサイクリング

1981年8月1日 千葉県袖ヶ浦市生まれ

木更津総合高校卒、リオデジャネイロパラリンピック銅メダリスト

現在はパラサイクリングで世界も目指す傍ら、実業家として活躍中

2012年 ロンドンパラリンピック 4位

2014年 世界選手権 4位

2015年 アジアオセアニアゾーン選手権 優勝 Best Player 賞受賞

2016年 リオデジャネイロパラリンピック 銅メダル

2017年 アジアオセアニアゾーン選手権 2位

2018年 ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会 優勝

世界選手権 金メダル



(2024年6月5日開催)

### 北田 雄夫 氏 アドベンチャーマラソン

1984年1月18日 大阪府堺市出身

近畿大学卒

2017年日本人初として初めて「世界7大陸アドベンチャーマラソン走破」を達成。

誰も成しえていない「世界4大極地の最高峰レース走破」に挑んでいく。また講演、執筆、レース映像の配信などを通じて、見たことのない景色と物語を届ける活動を行う。

2020年 Iditarod Trail Invitational (アメリカ/アラスカ 10日間 560km) 【5位】

2021年 Mega Race (ドイツ/トレイル 14日間 1,001km) 【6位】

2021年 Iditarod Trail Invitational (アメリカ/アラスカ 10日間 560km) 【5位】

2022年 La1200 (モーリタニア/サハラ砂漠 20日間 1,200km) 【4位】

2023年 Iditarod Trail Invitational (アメリカ/アラスカ 30日間 1,600km) 【3位】



(2024年6月19日開催)

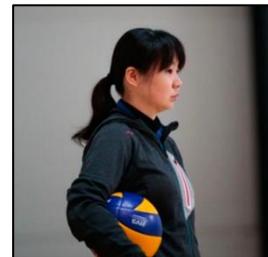
## 新村 香 氏 バレーボール女子日本代表アナリスト

1978年10月20日 愛媛県生まれ

鹿児島県生まれ。

鹿児島県立指宿高校→鹿屋体育大学卒。

2010年から2シーズンアゼルバイジャンのプロチームアナリストとして活動し、2012年ロンドンオリンピックでは、バレーボール女子日本代表チームに帯同し、28年ぶりの銅メダル獲得に貢献。また2021東京オリンピックまで、アナリストとして、代表チームに貢献し、バレーボール女子代表チームを支えた。



- 
- 2005年 女子日本代表チームサポートアナリスト
  - 2006年 女子日本代表チームサポートアナリスト
  - 2010年 女子日本代表チームサポートアナリスト（世界選手権3位）
  - 2011年 女子日本代表チームサポートアナリスト
  - 2012年 女子日本代表チームサポートアナリスト（ロンドン五輪銅メダル）
  - 2017年 女子日本代表チームメインアナリスト
  - ~2021年

(2024年6月26日開催)

## 栗原 文音 氏 バドミントン選手

福岡県北九州市生まれ。

九州国際大学附属高等学校卒

リオデジャネイロオリンピック出場。

混合ダブルスとして日本人初の5位入賞。



- 
- 2014年 マレーシアインターナショナルチャレンジ（女子ダブルス）優勝  
全日本総合選手権大会（混合ダブルス）3位
  - 2015年 ポルトガル国際（女子ダブルス）優勝  
スイスオープン（女子ダブルス）2位  
USオープン（女子ダブルス）2位  
全日本総合選手権大会（混合ダブルス）優勝
  - 2016年 シドモディインターナショナル（混合ダブルス）3位  
リオデジャネイロオリンピック（混合ダブルス）5位入賞

(2024年7月3日開催)

## 受講生レポート

### （官野 一彦さんの講話より）

「官野さんの講演を聞き常に前向きに取り組むことの大切さを学びました。困難に出会った時に前向きに向き合うことが成功の鍵だという言葉を受け、私も怪我を治し頑張ろうと思えました。」

「“できることを考え自発的に取り組む”という官野さんの言葉は、同じ競技者には必ず必要なことなので私も当たり前これを実践して行きたいと思います。」

「官野さんの“どんなに苦しくても辛くても逃げる人間になりたくないからと人生一番きつい練習をして追い込んだ”という話を聞いて、心を打たれました。私自身も身体に不自由なくできていることに感謝して、もっと頑張ろうと思った。」

### （北田 雄夫さんの講話より）

「挑戦の形は様々あるけど、誰も成し得たことのない目標に挑んでいく姿勢や達成するために行動している姿に感動した。私自身にも夢があるのでその夢を実現するために日々取り組みたいと強く思った。」

「北田さんの話を聞いて、自分を信じることの重要性を知ることができた。自分を信じて挑戦していくことが成長の一步であると思いました。」

「自らの体験や成功、失敗、思考、感情を自分の口から自分の言葉で自分の考えを発信する、伝えることが大事で自分の物語を創れるように大学生活を送っていきたくと思いました。」

### （新村 香さんの講話より）

「チームスポーツにおいて自分の役割を全うする重要性を知ることができた。私も選手やスタッフの間でのコミュニケーションを取り続けて最強のチームワークを築いていきたいと思った。」

「新村さんの話を聞いて“誰かのために”動くことがチームにとって一体感を生み、一丸となって戦うことができることが強いチームだと感じた。」

### （栗原 文音さんの講話より）

「栗原さんの話を聞いて、誰よりも負けず嫌いに取り組み続けることが重要であることを学びました。私も自分自身やっているスポーツを誰よりも負けたくないという気持ちが強いので、これからも努力し続けたいと思います。」

「成功した事だけではなく、失敗や思考したこと、感情も含めて自分の口から自分の言葉で自分の考えを発信することが自分自身の軸になると思う。」

「自分の考えを発信することはすぐに取り組むことができると思う。このすぐに行えるような当たり前のことを毎日の積み重ねた人が一番の成長を掴むのだと感じた。」

# アスリートサポートプログラム

担当者 吉田 一也

本学部では、スポーツトレーナーとして学びを深めたい学生を対象に、トレーナーコースとしてサポートを行っている。近年では、20人前後の学生がこのコースに所属し、より実践的な知識や技能について学んでいる。しかし、トレーナーを志す学生にとって、トレーナー活動環境との接点が乏しく、トレーナー現場の実際や働き方などを知る機会が不足している状況にある。そこで、トレーナーコースの推奨科目である「スポーツトレーナー実習」では、学生の意欲向上ならびに実際の現場を知る機会の提供を目的に、スポーツ現場で実際にトレーナーとして活躍されている方の生の声を聞く機会を設けている。

本年度は現役トレーナーとして勤務されている方を講師として本学にお招きし、トレーナーとして実際に働くことに対する考え方の講義、および実技指導をしていただく機会を設けた。単にトレーナーとしての知識や学生時代に必要な学びについてお話いただいただけではなく、実際に「選手を視る」とはどういったことかを指導をしていただける貴重な機会となった。学生達は、講師の方との会話を通し、多様なトレーナーとしての働き方やスポーツ選手のサポートに必要な考え方や現場で求められることをより知ることができたのではないだろうか。本授業で得た学びが、今後トレーナーを目指していくうえでの指針となることを期待したい。

## <セミナー>

日時：2023年12月2日（月）

講師：森永製菓株式会社 in トレーニングラボ

NASM-PES、NCA-PT、EMI-CPY

中嶋 杏菜 氏（下段右から6番目）



## 受講生レポート

### <スポーツ科学部3年 結城 裕道>

実際に働いているスポーツトレーナーの方の話聞くのは非常に興味深かったです。身体的なところだけを見るのかと思っていましたが、選手の心理面や背景などにも着目して活動をしていることを実感しました。最後の方に行ったエクササイズは初めて行うものでしたが、行うことで、自身の身体がずれていることやその効果を実感することができました。

### <スポーツ科学部3年 岡 優音>

実際にトレーナーの方の話聞いて、資格があればいいと言うわけでないことが実感できた。またトレーナーの方のリアルな生活スケジュールも聞け、スポーツ選手との関係がどれだけ重要になってくるか理解出来た。トレーニングの組み立て方や、目標設定となる根拠や理由も明確にすること一つ一つが必要になってくる。フィジカル面だけでなくメンタル面でも支えていく必要があるのがトレーナーであると改めて感じた。

### <スポーツ科学部3年 塚本 好陽>

今回の講義で実際にトレーナーとして働いている方のお話を聞いて責任感と充実感があるのだと思いました。実際に、今までは自分がトレーナーにみてもらおうことしかなかったのであまり分からないが、選手のことを常に考え、パフォーマンスが向上するようにメニュー組まなければならないという責任を負いながらも充実した生活を送っているのだろうと、話されている姿をみて感じました。



# 保健体育教員採用試験対策プログラム

担当責任者 今村 律子

2024年度の教員採用試験1次合格者は、中学校25名、高等学校5名の30名であった。また、2024年7月17日～8月21日に渡って梅田教授、柿山教授、今村准教授で、2次試験対策（含実技）を行い、2次試験合格者について、中学校は、北九州市中学校1名、福岡市2名、福岡県4名・長崎県1名、熊本県1名、香川県1名、島根県1名、広島県1名の12名、高等学校は、福岡県1名、佐賀県1名の2名で、合計14名であった。なお、12名が保健体育教員コースである。今年度はコロナ後の傾向として、教職・教養の試験内容の統一化傾向や、実技試験内容の種目数の定着など変化が見られた。北九州市、熊本県、島根県、福岡市、福岡県において大学推薦制度が導入されている。自治体によって、一次試験の免除や一次試験への加点、教育実習を試験対象としているなど、様々な推薦形式が採用され、今後も推薦形式の増加が予測される。実技指導においては、多くの学部教員に指導・支援を頂いている。

## <プログラム内容>

### 令和7年度教員採用試験（令和6年6月～実施）対策の実施

- ① 一次試験対策（筆記・実技・面接等の指導も含む）

2025年1月・2月・3月 模擬試験の実施

- ② 二次試験対策（一次試験合格予定者を対象）7月中旬～8月末実施

### 現役教員の講話・専門家実技指導

- ・現役教員（当学部卒業生を含む）より、採用までの対策および教師生活等の講話

4月10日（水）1限	大賀雄史先生<福岡県教育庁教育振興部社会教育課 社会教育主事>
4月10日（水）2限	作本佳隆先生<福岡県教育庁教育振興部義務教育課 教育相談室 指導主事>
6月25日（火）1限	秋田瑞弘先生<福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課 指導主事>
6月25日（火）3限	吉廣精人先生<福岡県教育庁教育振興部体育スポーツ健康課 指導主事>
7月2日（火）1限	古沢昭一先生<宗像市立河東中学校 校長>
12月2日（月）5限	瀬尾博栄先生<福岡県立筑紫高等学校 校長>

\*月曜5限は、教育実習事前事後指導で開催

- ・採用試験実技対策のための指導

（実技指導：梅田、田口、坂本、神田、島本、古谷、川崎、三島、今村）

7月末～8月中旬	陸上競技、器械運動、柔道、剣道、バスケットボール、バレーボール、ダンス、ソフトボール、水泳
----------	---

### 教員採用受験情報集約と報告資料の作成

- ・受験者（4年生）から受験情報を集約し、合格者の報告会を教職関連授業にて実施
- ・報告媒体及び、模擬授業の動画を作成

### <2024年度 公立学校教員試験合格者>

中学校：（福岡県）古賀春菜 佐藤綾 西山大智 中塚愛絵里

(北九州市) 佐藤愛海 (福岡市) 高野 柊里 新澤駿尚  
(長崎県) 黒木向日葵 (熊本県) 宮本夏希 (香川県) 秋山優衣  
(島根県) 青木愛花 (広島県) 伊達司  
高等学校：(福岡県) 大原峻介 (佐賀県) 大隈愛望

## 合格者レポート

### <スポーツ科学科4年 大隈 愛望 (佐賀県高等学校)>

私が教員採用試験に合格できたのは、自分を信じ続けたことに加え、多くの方々の支えがあったおかげだと感じています。大学3年次から教員コースに所属し、同じ志を持つ仲間と切磋琢磨する中で刺激を受けました。初めて周囲の勉強量を知ったときは、自分もこのままではいけないと痛感しました。まず過去問や参考書を揃え、授業や部活動以外の空いている隙間時間を活用してコツコツ勉強を重ねました。他の人より勉強時間は少なかったかもしれませんが、限られた時間の中で集中して取り組むことが大切だと実感しました。また、実技試験対策ではスポーツ科学部の各種目専門の先生方に指導をお願いし、練習を重ねていく中でより細部にまでこだわることができました。



教員採用試験という狭き門を突破するには、一人で努力するだけでなく、仲間と高め合い、専門の知識と経験のある方々の力をかりることが、より正確で近道だと思います。最後まで自分を信じ、周囲の支えを活用しながら頑張りたいと思います。スポーツ科学部の後輩の皆さんの健闘を心から応援しています。

### <健康運動科学科4年 青木 愛花 (島根県中学校)>

私は「思春期という不安定な時期の子どもたちの成長に貢献したい」と思い、教員を目指してきました。教員採用試験に向けて勉強を始めたのは2年の冬でした。一次試験について、まずは、受験する自治体の出題傾向を掴む必要があると考え、過去問を解き、分析をすることから始めました。そして、出題頻度の高い分野から順に参考書を繰り返し解くという勉強方法で進めていきました。二次試験について、模擬授業や面接試験の対策を行いました。何度も何度も先生方に模擬授業を見てもらい、面接対策をしていただき、沢山のアドバイスをもらったことで自信をもって本番に挑むことが出来たと思います。また、同じように教員を目指す仲間と共に頑張ることが出来たことが合格に繋がったと思います。教員コースには、真剣に向き合い、指導してくださる先生方や切磋琢磨し合える仲間が沢山います。周りの方々への感謝を忘れず、自分を信じて頑張ってください。応援しています。



# 健康運動指導者試験対策プログラム

担当責任者 道下 竜馬

## <プログラム概要及び成果>

本プログラムは、公益財団法人健康・体力づくり事業財団認定の健康運動指導士および健康運動実践指導者の資格取得を目指す学生を対象に、下記日程で筆記試験対策を健康運動指導演習Ⅱの授業内で実施した。本年度は健康運動実践指導者認定試験の受験希望者がいなかったため、健康運動実践指導者の試験対策プログラム（健康運動指導演習Ⅰ）は閉講となった。

本プログラムの成果として、第157回健康運動指導士認定試験に4年次生10名が受験し、10名全員が合格した（全体の合格率：70.4%）。なお、GH21台の学生は前年度の健康運動実践指導者認定試験にも全員合格しており、2年連続で100%合格を達成した。

## <実施日程>

令和6年9月16日～10月21日：健康運動指導士筆記試験対策講座

## 合格者レポート

### <健康運動科学科4年 田代 梨紗（令和6年度健康運動指導士 合格）>

健康運動指導士試験対策プログラムを受講することによって、健康運動指導士の資格を取得することができました。本プログラムの中で單元ごとに各専門の先生から、重要なポイントを押さえた的確な講義と模擬試験を通した解説から学ぶことで、知識の漏れなく正しい理解へと結びつきました。講義後には分からなかった部分を受講者同士で確認したり、担当の先生に確認したりできたため、自信を持って試験に臨むことができました。今後は本プログラムで学んだことを活かし、より多くの方の健康づくりをサポートし、我が国の健康課題解決に貢献できる運動指導者を目指します。



### <健康運動科学科4年 田中 香凜（令和6年度健康運動指導士 合格）>

健康運動指導士試験対策プログラムを受講したことで、健康運動指導士の資格を取得することができました。本プログラムでは、筆記試験のため單元ごとに専門分野の先生のご指導のもと、重要なポイントを学ぶことができました。学生同士で出題し合うことで、テキストの内容だけでなく出題者の意図も感じることができ、理解を深めることができました。模擬試験では、出題傾向や自身の苦手な分野、得意な分野を理解することができたため、試験対策のための勉強を効率よく行うことができました。今後は本プログラムで習得した知識を活かすとともに、自身の能力向上のため勉学に励み、多くの方々の健康づくりに貢献できる運動指導者を目指していきます。



# 生涯スポーツ教育実践プログラム

**担当責任者 霜島 広樹**

生涯スポーツ教育実践プログラムにおいては、学外から講師を招聘し、講演会を実施する「特別講演の開催」や、学外イベント・プログラムへ学生を派遣するといった「生涯スポーツ教育プログラムへのスタッフとしての参画」といった計画を立てていた。特に、特別講演については、福岡ソフトバンクホークスの関係者を始めとするプロスポーツクラブの担当者とのやりとりを進めていたが、スケジュールの都合等の理由により、来年度に持ち越すこととなった。特に、福岡ソフトバンクホークスは2024年度における主催試合の観客動員数累計が272万6058人と、日本のプロスポーツクラブの中でも特筆すべき成果を残しており、完全キャッシュレス決済デーの導入などIT化に関する興味深い事業の取り組みも数多く実施していることから、来年度には上記に関連する内容を講演頂けるよう調整を図っていきたいと考えている。

生涯スポーツ教育コースについては、コースの特色をより強く打ち出していくことが今後の課題として挙げられ、この点も踏まえて、来年度以降のプログラムを計画していきたい。

# キャリア教育プログラム

担当責任者 野口 安忠

今年度のステップアップセミナーは、キャリアセンターによる本学の就職・進路状況の説明をはじめ、株式会社リアセック社の PROG テストを活用した自己診断、多様な業種で活躍される方を講師に招聘した外部講話、大学スポーツ協会（UNIVAS）と株式会社マイナビが連携する「UNIVAS デュアルキャリアプログラム」といった流れで実施した。また、SPI（一般常識力テスト）を継続し、各授業の冒頭にミニ SPI テストを実施することで、自身の現状把握および就職活動に向けた準備の機会とした。

外部講話では、日本生命保険相互会社、ミズノ株式会社、西日本新聞社に勤務するスポーツ科学部の卒業生を講師として招いた。各講師には、在学時の就職活動の経験談や当時の学生生活についてお話いただき、スポーツ科学部生のキャリア形成に関する具体的な内容を提供していただいた。卒業生による講話は、学生にとって就職活動の実際を具体的にイメージしやすく、進路選択の参考となる貴重な機会であったと感じる。

本科目の目的は、次年度から就職活動をスタートする 2 年次生に、将来を見据えた学生生活のあり方を考えさせることにある。今年度も関係各位のご協力のもと、卒業生による外部講話の実施や、SPI の継続など、スポーツ科学部における就職・進路の実情を踏まえた講義を展開することができたと感じる。この科目の学びを通じて、一人でも多くの学生が円滑に就職活動をスタートし、希望する進路へ進んでくれることを心より願っている。



## 講師一覧

第1回	(9月19日)	: ガイダンス・一般常識カテスト
第2回	(9月26日)	: 本学の就職・進路支援の実際 (キャリアセンター)
第3回	(10月3日)	: PROG コンピテンシーテスト (株式会社リアセック)
第4回	(10月10日)	: 玉村紗弥氏 (日本生命保険相互会社)
第5回	(10月17日)	: 舛田晏堂氏 (ミズノ株式会社)
第6回	(10月24日)	: 小笠原麻結氏 (西日本新聞社)
第7回	(10月31日)	: PROG コンピテンシーテスト フォローアップ (株式会社リアセック)
第8回	(11月7日)	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム (主体性)
第9回	(11月14日)	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム (セルフコントロール)
第10回	(11月21日)	: UNIVAS デュアルキャリアプログラム (信頼関係)
第11回	(12月28日)	: 就職活動と業界企業研究について (キャリアセンター)
第12回	(12月12日)	: 現役学生による講義 GS210190 大隈愛望 氏 (保健体育教員 高等学校 佐賀県) GH210306 米田瑠 氏 (九電工)
第13回	(12月19日)	: 一般常識カテスト・意識調査アンケート

## 受講者レポート

### 第2回 (9月26日) キャリアセンター

企業の話やスポーツ科学部の先輩方の進路を聞いてみて、いろんな選択肢があることを知り、自分のベストな進路を見つけたいと思いました。教員になるにしろ、企業にいくにしろ、自分を知ること、世の中を知ることはとても必要なことで、なにを今頑張っているのか、社会について興味を持っているのか、などを考えて言語化できることが大事だと思いました。今できることは目の前にあることを一生懸命取り組むことだと思いました。努力が実って将来の自分の利益になるように部活動も勉強もアルバイトも頑張りたいです。(GH 女子)

### 第4回 (10月10日) 講師: 玉村紗弥 氏 (日本生命保険相互会社)

今回の講義では、日本生命の方の話聞いた。自分の中で特に重要だと思ったのは、選択肢を持つために努力するということだ。話をしてくださった方も教員免許を取得し、その上で就活も行ってたということなので、一つに絞るのではなく、自分も選択肢を増やせるように努力したいと思う。(GH 男子)

#### 第5回（10月17日）講師：舩田晏堂氏（ミズノ株式会社）

今日の講義では、ミズノに勤めている方が来ていただいた。人に与えられた時間は皆平等にあるので、その与えられた時間をいかに有効活用するかが大事だと思った。様々な経験が、就職活動となった時に、生かされると仰っていたので、チャンスなどを逃さず、今できることをしっかりやっていきたいと思った。（GS 女子）

#### 第6回（10月24日）講師：小笠原麻結氏（西日本新聞社）

今回の講義では就職にするにあたって大事なことをたくさん学びました。ストーリーがある人の説得力。相手も自分も納得して仕事選び。面接は自分を出すところ。ブレブレだとばれる。すごく響きました。就職をするにあたってたくさん悩むことや周りから反対されることもあると思いますけど、自分のやりたいこと、やりがい、をみつけて一生懸命やることが大事だなと思いました。（GS 男子）

#### 第8～10回（11月7日～11月21日）講師：UNIVAS デュアルキャリアプログラム

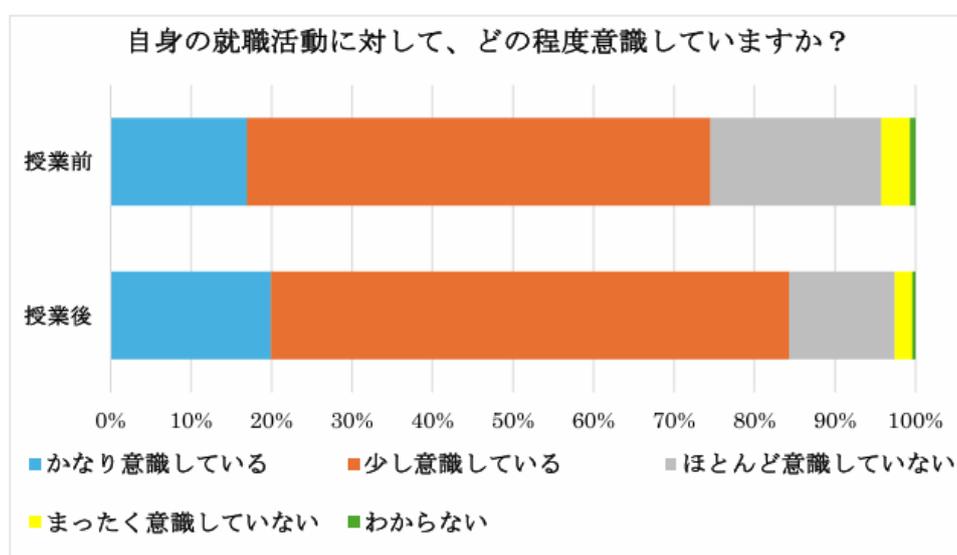
主体性のある人間を目指すの良い副産物を得られるということを学んだ。主体性と自主性の違いを理解し、主体性が持つ価値も理解することが出来た。特に自責思考が主体性を向上させ、VUCAの時代において自分でキャリアを切り開いてけるという言葉が印象に残っている。現在私は社会人基礎力と課題設定力、課題解決力を鍛えられる福岡市課題解決型プログラムに取り組んでいる。そこでも主体性が求められているため、どれだけリーダーシップを発揮しながら仲間の良さや主体性・自主性を引き出せるかを考えて行動して行きたい。（GH 男子）



### 【授業前後アンケート集計】

就職活動に対する学生の意識調査として、授業の前後で同様のアンケートを実施した。以下の図は各質問に対する学生の回答の割合を示している。

「自身の就職活動に対して、どの程度意識していますか？」という質問では、授業後に“意識している”と回答している学生の割合が授業前より増加している。この結果から、本科目の実施が、就職活動に対する意識向上において効果は得られたものと捉えている。



# 令和6年度 成果一覧

## 団体の部

### <剣道部>

第43回全日本女子学生剣道優勝大会 第1位

### <陸上競技部>

第93回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子4×100mリレー 第3位

第108回日本陸上競技選手権大会 リレー競技 女子4×100mリレー 第2位

## 個人の部

### 国際試合

#### <柔道部>

大野 萌亜(GS3) 2024 チューリングゲン国際大会女子57kg級 第1位

グランドスラム東京2024 57kg級日本代表 出場

グランドスラム・タシケント2025 57kg級日本代表 第2位

#### <陸上競技部>

山形 愛羽(GS1) ナッソー2024世界リレー 4×100m 出場  
※予選7着

恒石 望乃(GS1) 第20回U20アジア陸上競技選手権大会 女子走幅跳 第2位

#### <サッカー部>

坂井 悠飛(GS2) U20全日本大学選抜 アジア大学サッカートーナメント 第1位

#### <ソフトボール部>

青山 隼也(GS3) 大学男子日本代表選出 インドネシアマカッサルオープン 第1位

#### <ハンドボール部>

大山 紗理奈(GS1) U18女子日本代表選出 出場

第10回女子ユースハンドボール世界選手権 ※第8位

#### <モーターボート・水上スキー部>

長友 亮(GS4) 2025年度学生水上スキー世界選手権大会 出場

## 国内試合

### <陸上競技部>

山形 愛羽(GS1)	第 78 回出雲陸上競技大会	女子 100m	第 3 位
	2024 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 100m	第 1 位、
		女子 200m	第 1 位
	布勢スプリント 2024	女子 100m	第 2 位
江原 美月優 (GS1)	2024 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子 400m	第 3 位
	第 40 回 U20 日本陸上競技選手権大会	女子 200m	第 2 位
		女子 400m	第 2 位
伊藤 彩香(GS3)	第 93 回日本学生陸上競技対校選手権大会	女子 100mH	第 2 位
中尾 優花(GS3)	2024 日本学生陸上競技個人選手権大会	女子走幅跳	第 3 位
アツオビン ジェイソン (GS4)	2024 日本学生陸上競技個人選手権大会	男子砲丸投	第 1 位
	第 108 回日本陸上競技選手権大会	男子砲丸投	第 2 位
	第 64 回実業団・学生対抗陸上競技選手権大会	男子砲丸投	第 2 位
	第 93 回日本学生陸上競技対校選手権大会	男子砲丸投	第 2 位
	第 21 回田島直人記念陸上競技大会	男子砲丸投	第 1 位

### <柔道部>

大野 萌亜 (GS3)	2024 年度全日本ジュニア柔道体重別選手権大会	女子 57 kg 級	第 2 位
	2024 年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会	女子 57 kg 級	第 3 位
小齊 穂奈美 (GS4)	全日本学生柔道体重別選手権大会	女子 63 kg 級	第 2 位

### <新体操競技部>

海谷 燎摩 (GS4)	全日本学生新体操選手権大会	個人総合	第 2 位
-------------	---------------	------	-------

### <なぎなた部>

内田 優(GS2)	第 63 回全日本学生なぎなた選手権大会	個人試合	第 2 位
平田 華代(GH3)	第 63 回全日本学生なぎなた選手権大会	演技試合	第 2 位
		・内田 優(GS2)	

### <モーターボート・水上スキー部>

長友 亮(GS4)	2024 年全日本学生水上スキー選手権大会 チャンピオンシリーズ	第 2 戦 男子スラローム	第 1 位
		男子トリック	第 1 位
		男子個人総合	
	2024 年全日本学生水上スキー選手権大会	男子個人総合	第 2 位

<レスリング部>

黒木 美帆(GS4)	令和6年度 JOC 杯ジュニアクイーンズカップ ・レスリング選手権大会	U23 の部 57 kg級	第3位
磯江 はるか(GS4)	令和6年度 JOC 杯ジュニアクイーンズカップ ・レスリング選手権大会	U23 の部 50 kg級	第3位
小林 久美(GS3)	令和6年度 JOC 杯ジュニアクイーンズカップ ・レスリング選手権大会	U23 の部 女子 68 kg級	第2位
	第71回全日本社会人レスリング選手権大会	女子 68 kg級	第3位
	令和6年度全日本学生レスリング選手権大会	女子 68kg 級	第3位
	フォーデイズ杯令和6年度 第17回全日本女子オープンレスリング選手権大会	女子 68 kg級	第2位

## 教員採用試験

<中学校>

福岡市：新澤 駿尚(GS4) 高野 柊里(GH4) 北九州市：佐藤 愛海(GS4)・  
福岡県：古賀 春菜(GS4) 中塚 愛絵里(GS4) 佐藤 綾(GH4) 西山 大智(GH4) 香川県：秋山 優衣(GH4)  
熊本県：宮本 夏希(GH4) 広島県：伊達 司(GH4) 島根県：青木 愛花(GH4) 長崎県：黒木 向日葵(GS4)

<高等学校>

佐賀県：大隈 愛望(GH4) 福岡県：大原 竣介(GS4)

## 健康運動指導士及び実践受講者認定試験

<健康運動指導士>

安永 茉矢(GH4) 田代 梨紗(GH4) 稲光 美紅(GH4) 西村 ありさ(GH4) 西山 大翔(GH4)  
金光 凱夢(GH4) 松木 悠人(GH4) 田中 香凜(GH4) 中村 郁斗(GH4) 高橋 和奏(GH4)

## JATI

中村 奈生希(GS4) 松井 寛佳(GS3) 田澤 広佳(GS3) 結城 裕道(GS3)

令和6年度「福岡大学 学部教育充実予算」  
体育・スポーツのエキスパート育成プログラム事業報告書

---

発行 令和7年 4月  
編集 檜垣靖樹 乾真寛 吉田一也 道下竜馬  
野口安忠 霜島広樹 今村律子 橋口 欧介  
発行者 福岡大学スポーツ科学部  
福岡市城南区七隈8丁目19番1号  
092-871-6631 (代表)

---

<https://www.spo.fukuoka-u.ac.jp/>

